

## 2.7 サンタクルス県北部橋梁建設計画

### 【建設計画の概要】

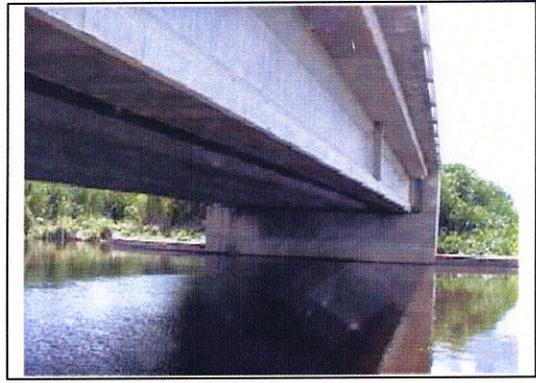
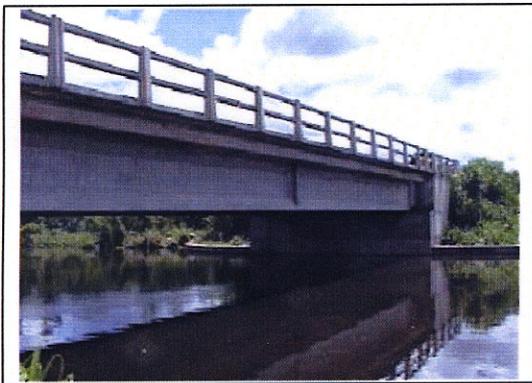
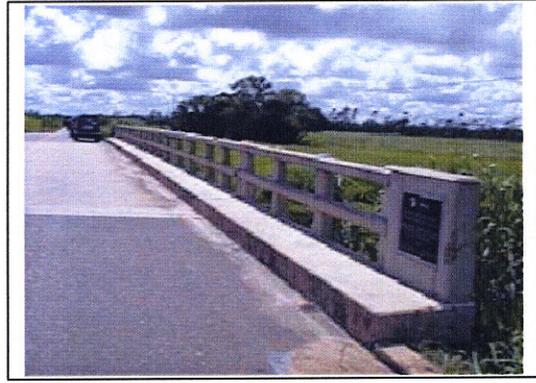
サンタクルス県北部橋梁建設計画は、わが国無償資金協力により実施され1997年に竣工した。計画の目的はサンタクルス県北部地域の洪水被害を軽減するため、橋梁建設によって通水断面を確保するものであった。建設された7つの橋梁はサンタクルス県北部のグアピラ市から沖縄移住地間の国道9号線上に位置している。

### 【現地踏査結果】

現地踏査から7橋は概ね健全な状態にある。しかし、ランチョチコ橋およびパイロン橋は、橋台背面の盛土の転圧不足によると考えられる踏み掛け部の沈下が見られた。沈下部を近年に補修したが、補修工事後も盛土材の側方流出が進行している。

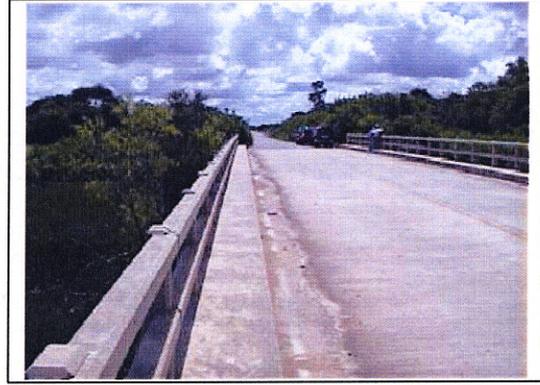
また、残念なことにトロ橋およびエンパルメ橋の橋名盤が剥ぎ取られてしまっていた。上記2点を本調査団長から道路公団 Ing. Humberto Landivar (建設局長) Ing. Alfredo A. Vargas Tunich (フォローアップ部) Ing. Efain Espada Larrazabal (建設部長) に申し送りました。

### (1) ラス チャクラス橋 (km67+125)



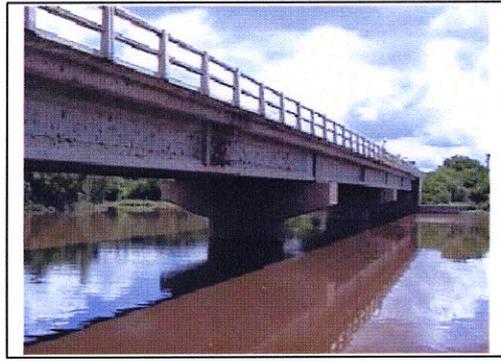
- ・ 橋梁状態および取り付け道路部とも健全であった。

(2) ラス マラス橋 (km68+730)

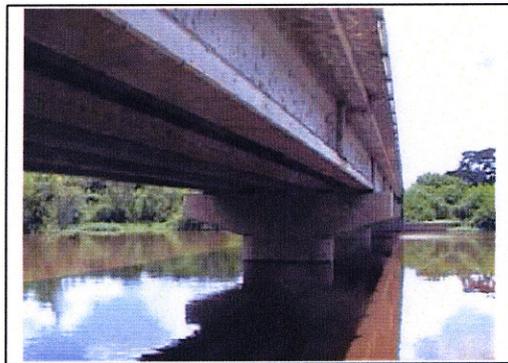


上下部工とも健全であった。

(3) エル トロ橋 (km73+410)

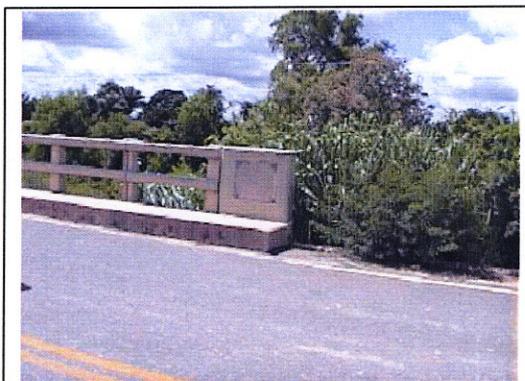
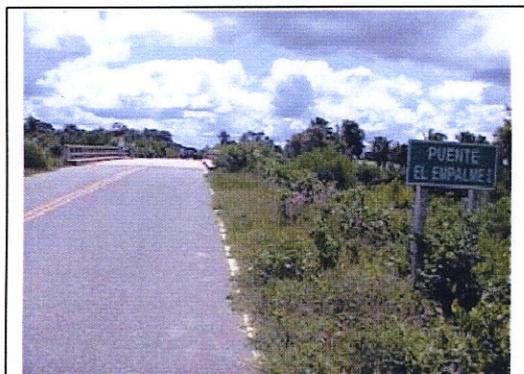


上下部工とも健全な状態であった。しかし、道路視距確保のため路肩部の草刈が必要である。また、橋梁部を隠すほど、雑草が繁っていることから、交通車両が橋梁親柱に衝突する危険がある。

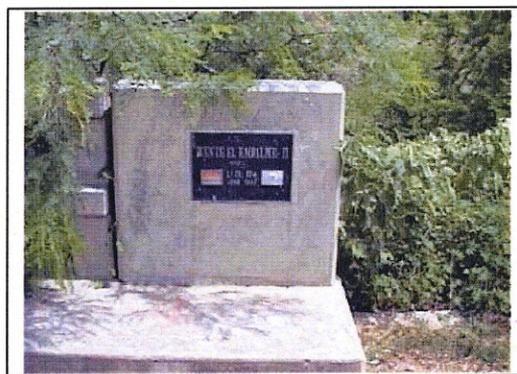
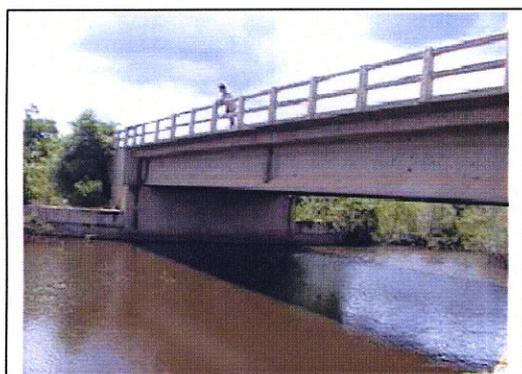


・橋名盤が剥ぎ取られている。

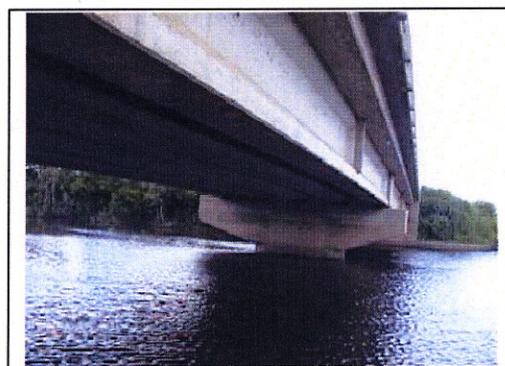
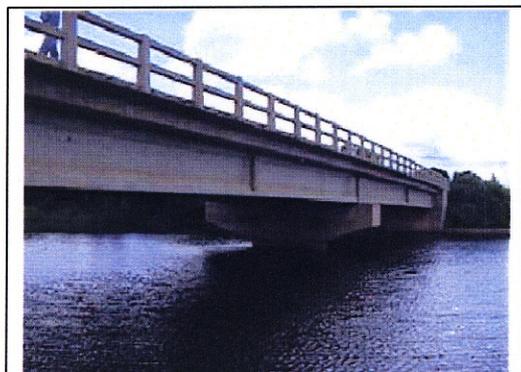
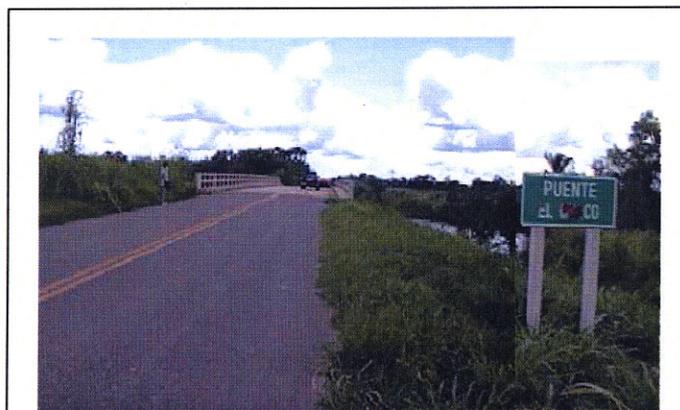
(4) エル エンパルメ II 橋 (km85+700)



上下部工とも健全な状態であった。しかし、橋名盤が剥ぎ取られている。



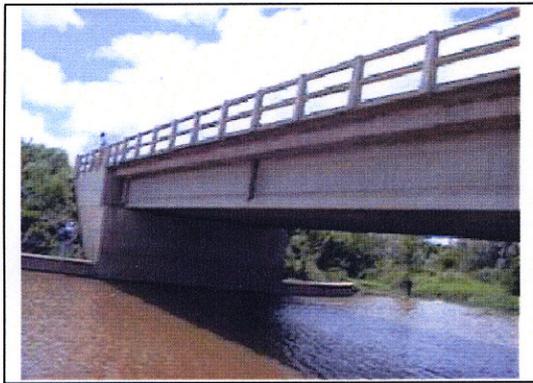
(5) チャコ橋 (km88+500)



(6) ランチョチコII橋 (km89+650)

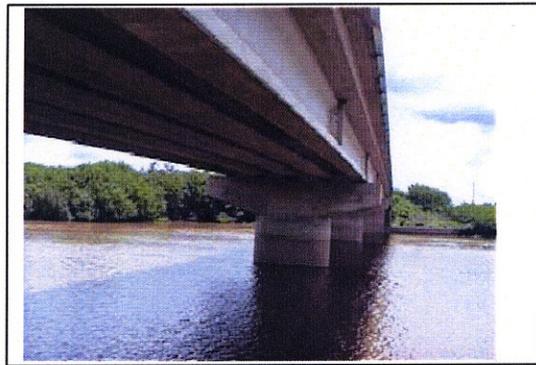
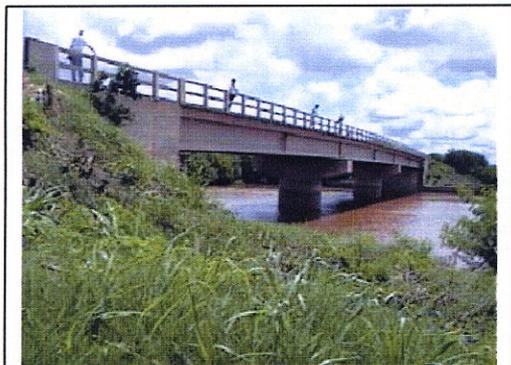


橋梁建設後橋台背面の沈下が見られる。近年、補修されたが補修後も路肩部の盛土材が側方流出し、沈下が再発している。



橋台背面盛土部が流出し、取り付け道路盛土部の沈下が進行している。また、ウィング背面の盛土材が陥没した状況であった。原因は橋梁背面への路面排水の流れ込みと考えられる。

(7) パイロン橋 (km90+030)





ウイング背面の盛土が流出していた。  
ランチョチコⅡ橋同様な問題が生じていた。

以上の踏査結果を表 2.7.1 に示す。

表 2.7.1 サンタクルス県北部橋梁建設計画 調査総括表

	健全度	留意事項
(1)ラス チャクラス橋	問題なし	特に問題なし
(2)ラス マラス橋	問題なし	特に問題なし
(3)エル トロ橋	問題なし	橋梁前後の視距確保のため草刈が必要である。 橋名盤が剥ぎ取られている。
(4)エル エンバルメⅡ橋	問題なし	橋名盤が剥ぎ取られている。
(5)チャコ橋	問題なし	特に問題なし
(6)ランチョチコⅡ橋	問題なし	・取り付け道路盛土部の土工の側方流出を防止するため、盛土部の再転圧が必要である。
(7)パイロン橋	問題なし	・橋台背面部転圧不足による土工流出を防止するため、路面排水を誘導するアスカーブ等を布設する。